



新発田市立  
加治川中学校  
3学年便り  
第53号  
文責 石井  
11月9日発行

## パートリーダーの力持ち！！①

あのハーモニーはパートリーダーのおかげ！

### 努力してきたもの

#### 2組 渡辺 煌市 さん

今年で3回目の桜加祭でしたが、初めて挑戦することがあったので、去年よりも何倍も緊張することがあったので、1つ目は、男子パートが2つに分かれたことです。2年生までは、テノールだけでみんなで声を合わせやすかったのですが、分かれることでより釣られやすくなってしまいました。正直に言ってまとまりが全然なく、本番に間に合うか心配でした。2つ目は、英語の歌を選んだことです。前半と後半のテンポや雰囲気は全く違うので、その区別も難しかったです。桜加祭が近づくにつれて、みんなの声の大きさや音程がはっきりしていき、クラス全体の士気が高まりました。当日の午前練習の時に、上越教育大学学生のみなさんから教えてもらい、より良い歌声が響くようになりました。結果は銀賞となってしまい、とても悔しい思いをしましたが、最後の歌い終わる瞬間まで楽しむことができたので、結果は関係なく、このメンバーで努力し、調整をして歌いきることができたので良かったです。

### パートリーダーをしてたくさんのごことを得ることができた桜加祭までの練習期間

#### 1組 相馬 来琉 さん

僕は、テナーパートのパートリーダーをしました。パートリーダーをやってみて、パートリーダーであることの責任感をしっかりとって練習することができてよかったです。テナーパートはとても音程が高く、特にハレルヤはものすごく高かったので、最初は音程が出しにくく、また音量も出しにくかったのですが、パートリーダーの俺がしっかり声を出さなければいけない、という責任感をもって練習に励むことができました。

本番では、最初は出しにくかったところもしっかり出せて、合唱を楽しむこともできてよかったです。また、今回、こんないい合唱、そして、悔いのない最後の桜加祭を3年1組のみんなや、学年全員で創り上げることができて、本当に良かったし、一人一人に感謝したいです。

## 最後のパートリーダー

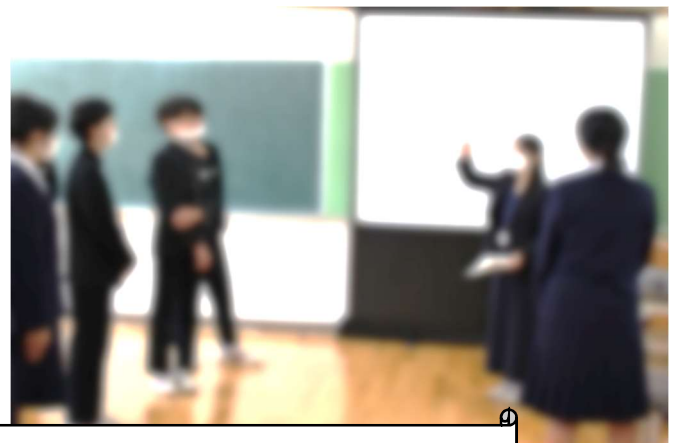
### 2組 中野 まり さん

私は3年間アルトのパートリーダーをしてきました。アルトのみんなは、パートリーダーに音程がずれているとか、言われなくてもみんな注意し合い、改善することができました。「もう少し、こうした方がいいんじゃない」って言うてみるとすぐに改善してくれてすごくやりやすかったです。1・2年生の時よりも音程が難しくなっていたので、改善していくのも大変だったけど、お互い支え合い、本当に今までよりも一番いい合唱にすることができました。桜加祭は終わった後のメッセージ交換で、「かっこよかった」とか、「一緒に歌えてよかった」とか、「ありがとう」などといったメッセージをもらえて、本当にやってきてよかったなと思いました。みんな最高でした。

## メイド・イン・ヘブン

### 1組 溝間 海星 さん

私は、3度目のパートリーダーでした。その3度のパートリーダーを経て、私は考えるようになりました。人をまとめるリーダーであることの意味を。今年やってみて、その答えを得ました。それは、人々に「覚悟」をもたせることなのです。これから待ち受ける本番への緊張やストレス。それがどんな結末へと行こうと、人はそれを覚悟することで、乗り越えられるのです。失敗すれば、悲しいとか、先のことを思うとストレスがたまる等はすべて逆なのです。先のことを考え、あらゆる手を尽くした時こそ、人は覚悟し、道へ進むことができるのです。「覚悟こそが幸福」、この言葉を胸に、私は、パートリーダーで学んだことと共に、ここから先の未来を生き抜いていこうと思います。



本番直前の練習！上教大大学院生のみなさんのアドバイスが素晴らしい！

